

B-14 冬期間における服地の汚染と変退色に関する研究

北海道教育大 伊藤 花子

1. 本研究は、北海道における自然条件に基づいて、衣服の汚染、変退色等の実状を把握することを目的とする。方法は札幌市で最も公害の大きい中心地と、比較的公害の少ない住宅地の両方に、同期間曝露した実験布を洗浄し、その結果を比較することによって、地域における影響を見出す糸口にした。

2. 試料は、クリーム、ピンク、ブルー系16色の服地を、中心部と郊外地に10日間曝露したものをを用い、(昭和41年日本家政学会において発表) それらを2種類の石けんで、一定の基準に基づいて洗浄した結果、測色により $x, y, Y, \lambda D, Pe$ 等を求めて洗浄効果と変退色の比較を行なった。

3. 結果としては、住宅地の場合中心地に比べ、汚染率は比較にならぬ程小さいが、紫外線の影響による変退色の変化が大きい。また中心地は、汚染が非常に強く、洗浄効果が少ない。しかし変退色については、郊外曝露より影響の少ないことがわかった。

なおこの場合、試験布の選定、汚染作製等について多くの問題を残すが、今後の研究の参考にしたい。